

平成27年度第3回 花巻市総合教育会議 議事録

1 開催日時

開会 平成28年3月29日(火) 午前10時00分

閉会 平成28年3月29日(火) 午後10時57分

2 開催場所

花巻市役所本庁舎3階 委員会室

3 出席構成員

花巻市長 上田 東一
花巻市教育委員会 照井 善耕(教育委員長)
花巻市教育委員会 中村 弘樹(教育委員)
花巻市教育委員会 役重眞喜子(教育委員)
花巻市教育委員会 伊藤 明子(教育委員)
花巻市教育委員会 佐藤 勝(教育長)

4 説明等のため出席した職員及び事務局

教育部長 市村 律
教育企画課長 岩間 裕子
小中学校課長 菅野 広紀
こども課長 小田中 清子
文化財課長 千葉 達哉
教育企画課長補佐 鈴木 和志
教育企画課上席主任 佐々木 晶子

5 議題

協議 (1) 花巻市教育大綱について

6 議事

(1) 開会

○市村律教育部長 ただいまから平成27年度第3回花巻市総合教育会議を開会いたします。はじめに当会議の主宰者であります上田市長からご挨拶をお願いいたします。

(2) あいさつ

○上田東一市長 今日は花巻市総合教育会議、第3回ということで、大変重要な花巻市教育大綱について議論をいただくことになっています。よろしくお願いします。

伊藤明子さんは、先日再任ということでご同意いただきまして、今後、また教育委員と

してのご活躍を大変期待しているところでございますのでよろしくお願いいたします。

先日、教育委員会から学力向上アクションプランが発表されました。皆さんご存知のように花巻市については、小学生の点数は県あるいは国の平均より高い、一方、中学生は県、国よりも低いという状況がございます。同じ子ども達なのに小学生の時には高く中学生は低いということは子ども達の問題ではなくて、むしろ子ども達をとりまく我々大人が作っているシステムに課題があるのではないかと私も思うわけでございます。先日、結果についてホームページで掲載いただきまして、市のフェイスブックについても公表させていただいたということでございます。私からも市のフェイスブックにシェアというのでしょうか、コメントを出させていただいていますけれども、やはり反響が大きいものがあると感じております。子ども達の教育について、学校は色んなことを学ぶ場所であって学力だけではもちろんないわけですが、学力の部分で伸ばしきれていないとすれば、この部分についてももう一度考え直す必要があるんじゃないかということで、教育委員会の方で頑張っていたいただいておりますので、我々も教育委員会の方向に沿って、教育委員会を支援させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

市村律教育部長 ありがとうございます。続きまして教育委員会を代表して照井教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

○照井善耕委員長 おはようございます。只今、市長さんからお話しがございましたけれども、何よりも大事なのは現状をどう認識して、そこから課題をどう焦点化して、この後の施策に生かしていくかということだと思います。丁度、年度末の時期でありまして各学校では学校毎の成果と課題をまとめ、それから人事異動の時期と重なったことで先生方の引き継ぎも終わって新しい体制になってきたところだと思います。そういう時期にこの総合教育会議ということで、これからの具体的な施策の進め方について色々協議して、市長さんのご指導をいただきながら一緒になって取り組んでいくということは非常に大事なことです。各委員の考え方も大いに出していただいて良い会議にしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(3) 協議 花巻市教育大綱について

○市村律教育部長 ありがとうございます。それでは次第の3、協議に入りたいと思います。ここからは花巻市総合教育会議運営要領第3条第2項の規定によりまして、上田市長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○上田東一市長 それでは、花巻市教育大綱についての協議に入ります。
事務局より説明をお願いします。

○岩間裕子教育企画課長 教育企画課長の岩間です。よろしくお願いいたします。

花巻市教育大綱につきましては、第1回総合教育会議におきまして、本年度策定する花

巻市教育振興基本計画の骨子を基に策定することを申し合わせているところでございます。また、教育大綱は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第1条の3において、総合教育会議において協議し、地方公共団体の長が定めるものとされておりますことから、本日、資料に基づき種々ご協議いただいたうえで、市長にご決定いただくこととなります。

初めに、教育大綱の基となります「花巻市教育振興基本計画」について、ご説明をさせていただきます。本計画につきましては、教育振興審議会、教育委員会議、総合教育会議での協議のほか、学校保健・安全・給食研究大会と子育て講演会の参加者、また、市PTA連合会役員へのアンケート、パブリックコメント、市校長会からの意見聴取等を実施いたしまして、策定を進めてきたところであります。教育振興審議会からの答申書も3月22日に受理しているところでございます。本計画の素案につきましては、教育委員会議及び市長協議におきまして、パブリックコメント実施前にご説明させていただいたところですが、パブリックコメント等でいただいたご意見を検討した結果、修正を行った部分を中心にご説明をさせていただきます。

パブリックコメント等でいただいたご意見につきましては、お手元にお配りしております資料No.3に一覧としてまとめてございます。いただいた意見は43件でございました。項目ごとのご説明は省略させていただきますが、文言修正を除く意見として多かったものは、家庭教育及び地域教育力の向上、青少年の健全育成の施策について、行政としての取り組みが弱いように感じるというものでございました。そのほか、学力向上につきましては、市内高等学校及び県立総合教育センターとの連携の重要性を指摘するご意見もいただいたところでございます。教育環境について、市内唯一の大学、富士大学との連携も追加すべきではないかというご意見もいただいております。また、第4回教育振興審議会での議論におきまして、政策分野別に示す市の姿の「子育て環境の充実」部分について、就学前教育において目指す子どもの姿を具体的に記載するべきであるとのご意見をいただいたところでございます。

パブリックコメント及び審議会での意見を踏まえて修正を加えたものが、資料No.2としてお手元に配布しているものでございます。この修正後の教育振興基本計画につきましては、3月25日の教育委員会議においてご了承いただいておりますが、この場でパブリックコメント実施前と変更になった箇所についてご説明をさせていただきます。

資料No.2の3ページをご覧くださいと思います。先程申し上げました「子育て環境の充実」についてでございます。ここに「“人づくり”の第一歩として「元気な子ども」「やさしい子ども」「考える子ども」を育成する子育て環境をつくります」ということでこの部分を修正させていただいております。

次に10ページをご覧くださいと思います。「子育て環境の充実」の基本方針の説明、総括部分でございます。こちらは以前、就学前教育の部分が小学校入学時の基盤づくりという書き方になっていたのですが、そうではなくて生涯にわたり心身ともに健康な生活を送ることができる基盤づくりなのだと明確にすることで文章を修正させていただいております。

次に15ページをご覧いただきたいと思います。「学力の向上」の部分でございます。取り組みの3項目に新しく「市内教育機関との連携」という部分を追加いたしました。市の教育研究所事業等への市内高等学校教員の参画要請等、また、県の総合教育センターとの連携による学力調査の分析等の取り組みにより児童生徒の学力向上を図るということでございます。

次に20ページをご覧いただきたいと思います。「教育環境の充実」の取り組みの2項目目でございます。後段部分に富士大学との連携について相互友好協力協定に基づいて継続して連携していくという部分を追加させていただきました。また、その1行上になりますけれども、県立高校の再編計画が出たことを受けまして、市内各高等学校の魅力づくりに対する支援の部分も記述させていただいております。

次に24ページをご覧いただきたいと思います。青少年健全育成の推進について、取り組みの1項目目でございます。当初、「家庭における青少年健全育成の推進」というタイトルでございましたけれども、こちらに「家庭・地域における」ということで地域の部分を追加させていただいております。また、各コミュニティ会議における、多世代交流事業等の実施の支援、子育て世帯と地域のつながりの強化ということで、地域の教育力の向上の取り組み部分を充実させていただいております。関係機関と連携した健全育成活動の推進につきまして、青少年健全育成の目的が明確ではないというご意見がございましたので、この部分につきまして自己実現のための向上心を持つ青少年の育成を図るということで目的を明確化して記載させていただいております。

次に29ページをご覧いただきたいと思います。芸術文化活動の推進の取り組みの1項目目、文化会館主催事業の部分でございますが、こちらには主催事業の充実について記載がほしいとのご意見がありまして、主催事業の充実と会館利用イベントの誘致に努めるという文章を追加させていただいております。

次に30ページをご覧いただきたいと思います。民俗芸能の伝承の取り組みの部分でございます。こちらには神楽の大会や発表会等につきまして、市ホームページ等を活用した積極的な情報提供を行うということで、これまで花巻市の主催部分だけホームページで情報提供していましたが、各団体から案内をいただいた部分につきましても随時掲載するというので、掲載データを充実させていく取り組みをしたいということで追加させていただいております。

只今、ご説明をさせていただきました部分が新しい教育振興基本計画となりますが、これを受けまして資料No.1、花巻市教育大綱（案）をご覧いただきたいと思います。教育振興基本計画のうち、基本目標、政策分野別の基本方針を「4 基本目標及び政策分野別基本方針」に記載しております。また、「5 政策分野別の重点方針」につきましては、計画の第4章の部分になりますけれども、基本方針の総括的な書き方になっている部分を記載した他に、取り組みの中から特に重点的に取り組む事業について記載をさせていただいて、それぞれの分野別にまとめたものになります。そのほかに、「1 はじめに」ということで、市長のメッセージという形で文章を入れさせていただきまして、その後根拠法令、期間を記載させていただいております。

教育大綱につきましては、市長のメッセージから始まりまして、最終的な政策分野別の重点方針までということで、大綱ですのでコンパクトにまとめさせていただいたということでございます。この案を基に皆様に様々ご議論をいただければと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。簡単でございますが、以上で説明とさせていただきます。

○上田東一市長 ありがとうございます。それでは、ただいまご説明のありました花巻市教育大綱について、皆様からご意見ご質問をいただきたいと存じます。

○照井善耕委員長 教育委員会として就学前教育から学校教育までやっていますけれども、大きな流れの中の教育分野という捉え方を常に振り返りながら、かつ、具体的なことと絡ませながらやっていかなければならないだろうなど。特に、子育て環境の充実を考えた時に子どもに視点が向くのは当然な訳なのですけれども、一方で、子ども達は一生懸命やるのだけど保護者がなかなか大変だとか色んな話も出てくるわけで、その時に保護者を批判して終わりとならないように、いわゆる、保護者も子育てをしながら一緒になって成長していくのだと。そうすると、それは生涯学習のひとつとしても考えられるし、みんなそれぞれの持ち味や弱いところがあってお互い理解しながら様々な活動を通して総合的にみんな成長していきましょうということだろうなど。そういう意味で、私たちが教育委員という専門的な部分で力を発揮すること、あるいは地域の一員として色んな活動にかかわりながら、ある時には教育に絞って課題の取り組みに重点を置いていくとか、そういうことが必要なんだと考えながら、あとは関係の方々との連携しながら具体的に進めていくことが大事なのかなという思いでございました。

○上田東一市長 ありがとうございます。今の話で教育大綱というのは必ずしも学校教育だけじゃなくて子育てとか生涯教育とかそういうことも重要なんだよというご指摘をいただきまして、まさにそのとおりだと思います。

先ほどご説明いただきました地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項に基づいて教育大綱を定めるわけですが、この中で「教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し」と条文がございますけれども、基本的方針というのは具体的にどういう風にかかれてあるかご説明いただければ。

○岩間裕子教育企画課長 教育基本法第17条につきましては教育振興基本計画の1ページ目、計画の性格と位置づけに参考といたしまして掲載をさせていただいております。基本的な計画を定めるよう努めなければいけないということで、地域の実情に応じた計画を策定しなさいと。

○上田東一市長 第17条の第1項が省略されていますが、第1項ではどう書いているの。

○市村律教育部長 第17条の第1項を読み上げます。「政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。」とあります。今、国で定めているのが第2期の国の振興基本計画でありまして平成25年に定めています。それを参酌しながら地方の実情に応じてそれぞれの団体に教育振興基本計画を定めることとなっています。

○上田東一市長 その方針は具体的にどうなっているの。

○市村律教育部長 国では大きく4つの方向性ということで、1. 社会を生き抜く力の養成、2. 未来への飛躍を実現する人材の養成、3. 学びのセーフティネットの構築、4. 絆づくりと活力あるコミュニティの形成を国で定める、としています。あとは段階に応じて幼稚園教育から大学まで示しております。国なので厚労省の部分は入っていないのですが、それでも。

○上田東一市長 そうすると今話を聞いていると大綱案、教育振興基本計画は今の政府の方針にも合致していると取りましたけれども。

○市村律教育部長 そうですね。これからの時代を生き抜く子どもをいかに育むかということですね。

○上田東一市長 わかりました。ありがとうございました。そのほか質問とかご意見とかございませんでしょうか。中村さんいかがですか。

○中村弘樹委員 高校再編について、花巻市の教育委員会は1歳から15歳なんですけれども、実際、高校卒業までという考え方を持っていて支援して下さるということだったので、市内の高校にとっても良いものが出来たのかなと思っております。

○上田東一市長 わかりました。基本計画にはそれは入っていますよね。そのほか、ご質問ご意見はございますでしょうか。役重さん。

○役重眞喜子委員 パブリックコメントの中身を読ませていただいて、先ほど課長さんが総括されたように、地域の教育力とか市の組織との関連もあるかもしれないんですけども、生涯学習との連携というところに結構ご意見があったのかなと感じました。それで、進め方の問題になるのかもしれないんですけども、教育大綱に関しては社会教育委員会議、それから実際に地域で生涯学習をやっているコミュニティ会議の方々とか、そういう方々からのご意見とかご協力をいただいているのかお聞きしたいです。

○上田東一市長 それは私が答えればよろしいのでしょうか。そういう意味では、地域づくりともかかわってくるので、教育委員会の教育部ですぐお答えできるかといえばそうではないかと思えますけれども、現状においては市長部局の生涯学習部で担当しているんですね。それから、総合政策部の地域づくり課もかかわっていて色んな組織に横断的に歩くので、その部分についてそれでいいのかというご意見はもちろんあると思うんですね。

ただ、私が考えているのは、どこかひとつにまとめるのはなかなか難しいのであれば、現状の組織のままで、生涯学習といった場合には教育委員会のノウハウをいただきながら進めていく必要はあるだろうなという考えです。そのうえで、現状の組織のままで当面は行くということを私は考えているところでございます。

○役重眞喜子委員 組織についてはそのとおりだと思います。どのようにしても凸と凹はあるので、要は連携していくための、この総合教育会議でしょうし、この教育大綱ですので、大方針ですのでそんなに細々したことにはならないと思うんですけども、やっぱり教育という切り口で市民に投げかけられたときに生涯学習や地域に対する期待が住民の方の中にあるんだよということは生涯学習関係の方々の方々の励ましにもなると思うし、そういうところの情報共有と連携を進めていただきたいと思います。

○上田東一市長 それは是非、そうさせていただきたいと思います。あと生涯学習といった場合に子ども達の教育と違いがあるとすれば、子ども達は自主的に教育を受けるということももちろんあるんですが、どちらかという先生方の指導を受けることだと思うんですね。

生涯学習で地域に入っていった場合には教わるだけでなく地域の人たちが自分達で学びたいということを自主的に考えていく部分で学校教育と違う性質もあるんじゃないかと思えますし、そういう地域の自主性というのは私は大事なんだろうなと考えます。ですから、そこを地域づくりの担当部署が一緒になって考えていく。そのときに、教育という視点から専門家のご意見を聞くのは大変重要なので、教育委員会の意見でやるという形で大変良いことなのではないかと思っております。そのほかに何かご質問、教育長さんから何かございますか。

○佐藤勝教育長 生涯学習とのかかわりについては、これから部局を超えてということもありますが、中で横断的に、具体的にやっていかなければならないと思います。その場合には、実際、コミュニティとのかかわりが強いのが旧3町で、支所とのかかわりも出てきますし、生涯学習の方式につきましても旧1市3町がそれぞれ個性がある進め方をしておりましたので、それは、一緒になって考えて共通のやるべきこととそれぞれの個性をもってやっていただくことを、地域づくり課、生涯学習部と一緒にやっていくことがこれからはもっと重要になっていくと考えます。

○上田東一市長 ありがとうございます。伊藤さん、生涯学習について何かございますか。

○伊藤明子委員 「生涯学習というのはキョウイクとキョウヨウ」という話があるんですけども、キョウイクとキョウヨウというのはお勉強（教育と教養）ではなくて「今日行くところがある」「今日用がある」それが大事だと。お年寄りが一人で家にいるのはよろしくないし、考え方がだんだん固まってきてしまって頑固なお年寄りになったりとか、口うるさくなったり、良い意味で口うるさいのはいいんですけども、そうでない口うるさいことがあるときはやっぱり「今日行く、今日用」だと。その一つとして生涯学習というのは大変良いことかなと思っております。

○上田東一市長 そういう意味では花巻のシニア大学は非常に素晴らしい活動をされていますよね。

○伊藤明子委員 そうですね。それから就学前の教育となりますと保育園とか色んな問題が出ていますけれども、保母さんの給料とか色んなことが出ていますので、日本全国はそうであるけれども独自に花巻はこういう良いやり方をやりますよということが、ひとつ大きく出ればまた違うと思いますし、そういうことが、例えば正規雇用をすることで子どもを産んで育てられるということで人口の増加にもつながると思いますので、ひとつ教育ということだけじゃなく、教育ももちろん大事だけれども、周りの環境ということも考えてやっていただければ大変良いことかなという風に思います。

○上田東一市長 今、伊藤さんがおっしゃったのは、子育て環境の充実ですよ。保育園の待機児童が今50人ぐらいいて、新しい制度で30時間の方も保育園に預けられることになったので、お子さん達の人数が減っている中で需要が増えている状況があるので、これについては教育委員会のこども課で対策は考えていただいておりますけれども、できるだけ待機児童を減らしていくというのが大事なんだと、それはやっていく必要があると思っています。そのほかにございますでしょうか。

○役重眞喜子委員 先ほど、市長さんのご挨拶の中にもありました中学生の課題なんですけれども、1つは、小学校は平均より上回って、中学校で落ちるというパターンが花巻では定着してしまっているんですけども。

○上田東一市長 前からそうだったんですか。

○役重眞喜子委員 ずっとそういう傾向ですけども。今までもいろんな取り組みをしているのですが、ひとつは小学校より中学校が伸びているという自治体の取り組みをもう少し真剣に分析して参考にするべきじゃないかなということと、小学校のうちは比較的きめ細やかな少人数であったり、手をかければその点数は上がるんですけども、中学生になるとそうはいかなくなってきて、手をかければ伸びるということに加えて、自分はこう

いう高校に行って、こういうに世の中にかかわっていきたいという本人の強いモチベーションがなければいくらエサをあたえても食いきれないとなってくるのが中学生だと思います。

中学校では職場体験とか非常に頑張ってもらっているのですが、もう少し教育委員会としても地域、家庭としても、中学生の出番を地域に作っていくことがすごく大事だと思っていて、職場体験だけではなくて地域で大人になった人たちがこういう風に地域を良くするために頑張っているとか、そういうものに触れる場を作っていないとモチベーションがなかなか高まらないなと私は自分の子育てをしてすごく痛感しています。

それぞれの項目がバラバラじゃなくて、例えば中学生が地域で行う子育て支援とか、多世代交流とか、出番がどんどんあって、あるいはスポ少の取組の中にも365日バレーボールをやっているのではなくて、1日ぐらいそういう地域の取組に団として参加してみようとか、具体的な各項目のつながりをつくることによって中学生の向上にもつながってくるんじゃないかなと思うので、そういうことを教育委員会だけじゃなくて地域の人からアイデアをどんどん出していただいて、それを支えられるように行政でもやっていけばいいんじゃないかなと思います。

○上田東一市長 さっき、あまり知らなかったので大変驚いたんですけども、我々が子どもの時は少なくとも花巻市の中学生は県の平均よりも上だったと思うんですよね。それが、そうじゃない期間が長くなっているというのを聞いて大変驚いていまして、どうしてなのかなということ考えた時に、役重さんがおっしゃるように他の地域、市、あるいは、町村等の違いは何なのかということ进行分析する必要があるんだと思いますね。そのうえでどうしていったらいいのかを考えなくちゃならない。モチベーションって非常に大事だと思いますね。なんで勉強するのかということですね。もちろん勉強は全てじゃないんですけども、勉強することによって違う世界が見えてくるのが実際あると思うんですよ。研究者として色々な研究ができるようになるには、やっぱり基礎学力がないとできないわけで、そういう可能性があるということは子ども達には伝えていくことが必要なんだろうなと思っています。

そういう意味でモチベーションをどう上げるかというのは、私がいつも言うのは、花巻というのはすごい人達が生まれたところで、宮沢賢治はもちろんですけども、新渡戸家とか佐藤昌介とか。例えば、江戸時代の貧しい人が一生懸命頑張ってすごい結果を出した。自分達も実は出来るんだということを伝えていくことも大事だと思うんですけども、それも踏まえてモチベーションをどうやって上げていくかということも大事だと思うんですね。

そのうえでの話になりますけれども、子ども達が色んなことをするというのももちろん大事なんですけれども、色んなことをさせ過ぎていて勉強に集中する時間が減っていないかということが心配なんです。先ほど役重さんが地域に出ていくことももちろん良いんだけど、あまりやりすぎると勉強というのは楽しいだけでなく詰め込みとか色んなこ

ともあるわけで、集中しないと学力は上がらないし、逆に言うとやればできると思うんですよ。小学生のときに出来ているわけだから、中学生も勉強をすれば出来るので、そこを基礎に立ち戻って、勉強というのは楽じゃないけれどもやっぱりやる必要があるんだということですね、なんかそういう時間を確保してやるというのが大事じゃないかという気が私はするんですね。自分自身の経験としては、私は中学校の時に野球ばかりやっていましたから、クラブ活動が非常に良いというのは分かるんですけどもね。そこも含めて時間の配分というのはもう少し考えて、子ども達だけに求めるのじゃなく、大人の世界が時間の配分がどうなのかということを考えてやるとか必要なんじゃないかなという気が私はしています。そのほかにこの件について何か。

○照井善耕委員長 今のテーマは面白いですよ。小学校の場合、平均的に良くて中学校でやや落ちて、では、この子ども達が高校、大学に行ってどうなるか。大雑把な見方をすると花巻の中学校は部活が盛んで一生懸命頑張っている。個々の子どもが目標を持って、生きがいを感じながら練習をしている。気持ちに余裕をもって最低限の勉強はやろうとか、あるいは、これ以上のレベルになったらとても家に帰って勉強できないから一歩手前で切り替えなければいけないとか、多分中学生はそういう話に乗ってこれると思うんです。だから先生方とか外部の指導者、保護者が現状の問題を共有して。だからといって大人から部活を制限したらまた潰してしまいますので、子ども達が学習の主体だという思いを認めながら、本当に子ども達が課題として捉えて部活がどうあればいいのか、休日の過ごし方はどうすればいいのか、そこのあたりが大事だという気がします。大人が主導してもだめ、中学生の場合は特に。

○上田東一市長 先ほど申し上げたように中学校の時にクラブ活動をしていましたから、非常に良かったし、その時に体を鍛えたとか頑張ったというのは今も残っているんですよ。そういう意味でのクラブ活動の重要性は私自身は思っているのですが、全員が全員それを望んでいるかというのが役重さんのお話のとおりだと思うんですね。本当はやりたくないけどやっている人がいるとか、もっと勉強したい子ども達がいるとか、最後は子ども達の話し合いの中で決めなくてはいけないにしろ、大人の目として見てあげなくていけないという気はします。

ちなみに、花巻から出た子ども達の高校や大学の状況というのはどうなのでしょう。他の市と比べて悪くないのかなという。

○佐藤勝教育長 確かに中学生の学力が相対的に小学校に比べると低いということがありますが、結果的に県内の高校生の状況を見ると特に盛岡から一関までの間というのは他地域に比べても全く遜色のない進路状況になっていると思います。ただ、個別に大学進学率が何パーセントというデータは持ち合わせていないのですが、高校の先生方もだいぶ頑張っているんじゃないかなと思います。

○中村弘樹委員 高校の推薦制度が今のままでいいのかどうかということも関係しているのかなど。ある親の話だと、中学生がスポーツで全国レベルになると、親が「勉強しなくていいから」「高校も大学も行けるよ」というような考えを持たれると。学力が追い付いていない、それでも大学までは行けるよと子どもが思ってしまうと。その先はどうなるかわからないんですけども、スポーツの推薦制度で大学まで保障されるというのが出てくると学力がおざなりになってしまうとか。

今の高校推薦ってスポーツが主ですよ。花巻東（高校）さんはスポーツで素晴らしい成績を上げている子は学力もついてきていますよね。そうなればいいんですけども、一部の親がそういう考えを持つと。

○伊藤明子委員 そういう考え方は問題だと思います。子どもが学校の勉強だけでなく社会勉強も含めて拒否してしまうことになるわけですから、それはよろしくないと思いますね。

ただ、どうして小学校から中学校になった時によろしくないかという原因を究明しながらやっていかないとならないと思いますのでね。秋田は東北にもかかわらず非常に学力が高いと聞いたので、学力の面であれば秋田ではどうなのかということもお聞きしながらというのもひとつかもしれませんね。東北は低い低いと口を揃えて言うんですけども。

○上田東一市長 我々が子どもの時はどっちかというときそういうイメージがあって、我々が頑張っても限界があるように思っていたわけだったんですけども、それこそ野球なんか、いくら花巻で野球が上手くたってプロ野球に入るなんか考えられなかったんです。ところが、今はいい選手になればプロ野球に入れることが当たり前だと思っていますよね。

勉強の部分考えた時も、我々は東北は劣っているというイメージを持っていたけれども、花巻の歴史を翻ってみると実は違うんだと。私も知らなかったんですけども調べてみると、よく見るほどすごい人が出ています。実はこの前、役重さんと話したのですが日本で農学博士号を最初にとった3人のうち2人は花巻にゆかりのある新渡戸稲造と佐藤昌介なんです。実はすごいことをやっているんですね。野球でできたというのを学問でも子ども達がやればできるんだということを教えてあげたいし、やりたい人はやればできるといってやってほしいし、そこがうまくバランスをとれば良いなと思っていますけれどもね。

伊藤明子委員 きちんと目標をもってやれば良いと思いますし、できれば親とか周りの人達も応援できる体制があれば良いなと思います。今は家庭力がなかなか低くなっていて、高校生でも家庭の問題で学校に行きたくなったりありますので、家庭の力が非常に大きいと思うんですけども、それは個々の問題でこちらが関与することではないとしても、それを含めてきちっと教えてくれる人がいればいいのかなと思っています。

○照井善耕委員長 以前、教育委員会で生涯学習のスポーツの関係もやっていたのですが、

スポ少の問題が出てきて、指導者のための研修会にいわゆるプロを招いてやった時によく話をされたのが、小学生からあまり絞り込まないでください。できるだけいろんなスポーツに親しませてくださいと。どうしても指導者の多くは野球となると野球漬けになる。この前、日報に花巻東高校の生徒さんが投書していました。東高校は技術はもちろんだけど、マナーの部分とか社会生活の部分とか教わった。自分は怪我して競技では苦労したけれどもおかげでリハビリに関心をもって専門学校に通っていると。

指導者が勝った試合をしても、勝った試合で何を学ばせるか、負けた試合を基にして何を学ばせ何を育てるか、まさに子どもにとっての生涯学習でもあるので、そういう広いもので、これを子どもの成長の為にやっているのだという感覚を持って、それは指導者がそういう意識を持てば、保護者もだんだん分かってくるんじゃないかなと。大きい大会を経験してくれば、そこで接触した他校の優秀な子ども達と勉強の話もできることもあるかもしれない。そういうことで、花巻の今の良さを生かしながら、学力の向上の部分まで上手く持っていけそうな感じもするんですね。そこを関係の人達でやりとりをして知恵を出し合えれば。東高校さんの中心になっている先生を講師として迎えたりあると思うんですよ。

○上田東一市長 東高の先生も忙しいでしょうから、なかなか全部回るわけにはいかないでしょうけどね。

○伊藤明子委員 いつも言っているのは、自分の子どもだと思えということと、自分の姪や甥だと思いなさいということで、それをやっぱり野球の先生達は実行していると思います。だから家庭的な問題がある子には、とことん問題につきあってやっていますし、ひとつ良いことはコーチ陣が卒業生なんですよ。教員免許も持っていて、中のことも分かっているというのもいいんじゃないかなと。こんなことを言うと語弊があるかもしれないですけども、家庭の中まで入って色んな話をしたりというのがひとつですね。だからこういう話をしている時にいつも思うのは中学校の先生とか色んな先生方ともこういう話ができればいいなと思うんですね。お互いに子どもに向き合うために、できれば先生方ともお話をする機会があればいいんだろうなと時折思っています。

○上田東一市長 ありがとうございます。だいたい重要なことは議論は出てきたように思いますけれどもよろしいでしょうか。付け加えることがあればお願いします。

(なしの声)

○上田東一市長 それでは、今ご指摘いただきました生涯学習の重要性と学力向上についての色んな考え方があるということ踏まえまして大綱を決定して参りたいと思います。よろしくをお願いします。

本日の議題は以上でございますのでここで議長を降りさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

(4) その他

○市村律教育部長 大変ありがとうございました。たくさんのご発言ありがとうございました。それでは、次第の4、その他に移らせていただきます。次回は平成28年度になりますけれども、次回の総合教育会議につきましては、これから事務局で協議内容と開催時期を検討いたしまして、市長さん、教育委員の皆さんとそれぞれ協議させていただいたうえで、28年度の総合教育会議で協議していく内容を決定したいと思いますのでよろしくお願いいたします。そのほか皆様から何かご質問等はございますでしょうか。よろしゅうございますか。

(なしの声)

(5) 閉会

○市村律教育部長 それでは、以上をもちまして、平成27年度第3回花巻市総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。